

第11回 大分市バリアフリー基本構想推進協議会

次 第

日時：令和元年7月31日(水) 10:00～

場所：J:COM ホルトホール大分 302・303 会議室

1. 開 会

事務局 挨拶

委員紹介

委員長・副委員長の選出

2. 第11回 大分市バリアフリー基本構想推進協議会

○議 事

①令和元年度におけるバリアフリー基本構想推進協議会の展開(案)

[資料1 P1]

②バリアフリーマスタープラン作成の方向性

・第11回バリアフリー基本構想推進協議会資料の全体像

[資料1 P2]

・大分市バリアフリーマスタープランの位置づけと目次構成(案)

[資料1 P3]

・バリアフリーを取り巻く大分市の状況①

[資料1 P4]

・バリアフリーを取り巻く大分市の状況②

[資料1 P5～P6]

・バリアフリー化の促進に関する基本方針

[資料1 P7]

・移動等円滑化促進地区における各種選定方法

[資料1 P8]

・移動等円滑化促進地区の概要

[資料1 P9～P12]

③今後のスケジュールについて

[資料2]

④意見交換

第 1 1 回 大分市バリアフリー基本構想推進協議会の結果（意見要約）

- バリアフリーマスタープラン目次案の第 3 章はハード、第 4 章はソフトについて示しており、第 2 章でそれらを統合する基本方針、理念を掲げているので、その事を明確にするために、第 2 章を「バリアフリー化の促進に関する基本方針」から「バリアフリー推進に関する基本理念、基本方針」としたほうが良いのではないかと。
- 現基本構想の重点整備地区である大分駅周辺地区に関して、66 ある生活関連施設の内、特定事業を行った施設が 2 つに限られているのはなぜか。
- 特定事業の基準はあるのか。トイレの表示に車椅子で利用可能であることを示すことも、バリアフリー化として大事だと思う。
- 現在行っているアンケートについて、属性（ターゲット）によって答え方が変わるので、今後の政策が変わっていくと思う。現状把握はもっと細かく出していく必要があると思う。
- どのような着眼点で現状把握をするのかチェックリストのようなものを作成すると、現状把握の状況把握ができると思う。
- 大分市に欠けている現状把握として、夜の移動時（照明等）の状況、移動等円滑化促進地区の中心となる鉄道駅の状況、また、ベンチなどの座る場所の状況を確認することが考えられる。
- 生活関連施設（商業施設）として、鶴崎駅周辺地区は、施設飲食店の数が少ない上、車いすで入れる店が少ない。鶴崎駅の 1km 圏内を越えた森町には店が多く、（ここを含めると）車いすで入れる店が増えてくる。この（生活関連施設の選定）基準だけ適用すると少し不便。
- 鶴崎の地図をみると物理的、機械的に同心円に（生活関連施設が）当てはまらないことは自明。面積を変えずに楕円状のエリア設定をするなどの柔軟性があっても良いのでは。
- 生活関連経路の選定について大在や鶴崎になると最短距離で選定されているが、実際は別の道を多く使っているかもしれない点（実際に使用されている経路を選定する）が課題である。

- 国の方針と、実際の市町村の(バリアフリー化の)在り方で少しずれがある。大分独自の問題や課題が見えているのであれば、それを基準にして大分独自の理念や方針を決めるような方向に少しでもできると良いと思う。今回で完成するものでなく、今から5年間かけて基本構想を実践していく中で、大分独自の理念や方針が再構築されていくと良いと思う。
- 立地適正化計画における都市機能誘導区域などの区域設定との調整が必要だと思う。
- 改定を機会に基本理念や基本方針を見直していただければと思う。例えば「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」などの閣議決定された定義などと照らし合わせながら見ていくと客観性もあり、よりユニバーサルデザインに即した考え方になると思う。
- 意見交換会など市民に伝えるときはもっとわかりやすい表現とすると意見が出やすいのではないと思う。最終的には広く認知してもらう必要がある事業だと思うので、その時には少しかみ砕いた形としていただけたらと思う。
- 鉄道駅のみでなく(植田、大南、坂ノ市、佐賀関、野津原等)支所単位で生活圏がバリアフリー化されることも必要と思う。基本的なデータ収集が可能であればした上で、次に続くべき整備対象という形で、独自の対象候補地区を選定することはできるのか。基礎データでもいいので、次の課題という位置づけになるような検討をしていただければと思う。
- 市民意見交換会やまちあるき等の内容やスケジュールを委員の方に案内してほしい。

(閉会時間 11時45分)

